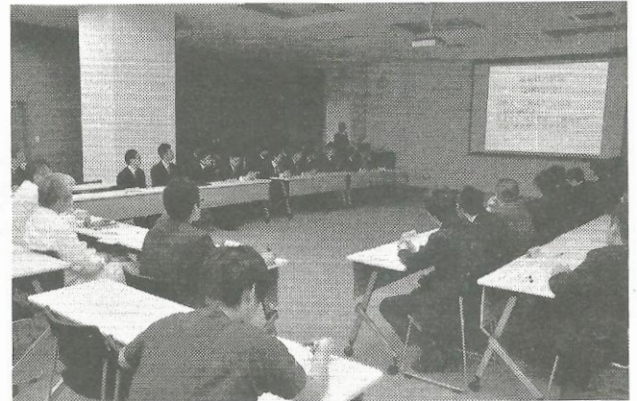


# 救命率向上を目指す

## 対応・処置、在り方確認



救急現場で起きた症例を基に対応や処置の情報共有した救急症例検討会

製鉄記念室蘭病院  
「救急症例検討会」

製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）の救急症例検討会が、室蘭市知利別町の同病院で開かれた。西胆振の救急隊員らが、最近の救急医療の現場で起きた症例や搬送時の対応・処置などについて、同病院の医師らと意見交換し、救命率向上を目指した対応・処置の在り方を確認した。

同病院への救急車搬入

件数は、2014年度（平成26年度）で2450件。循環器疾患を中心に西胆振管内の救急患者の大半を受け入れている実情などから、13年度比273件増となっている。

検討会は、同病院に救急搬送された症例の中で、救急隊員らが行った特徴的な対応などの発表を通じて、西胆振管内の救急隊が情報を共有するための勉強会。管内の救急隊員や、同病院の医師ら約80人が参加。計4症

例について報告、検討した。

このうち、「呼吸苦を訴えるアルツハイマー型認知症患者を搬送した症例」では、搬送を担当した登別市消防本部の野口雅人救急救命士が、「多岐にわたる不定愁訴（患者の訴えや自覚症状で、特定の疾患や臓器障害が推定できないこと）から、重症度の高い所見を見つけたため、より深く観察すべきだった」などと振り返った。

これに対し、高橋弘透析科長・循環器内科科長は、「認知症がある人は（症状を自ら訴える場合）うのみにしない方がいい。（バイタル測定）データや患者の様子などの）客観的な状況を見て「酸素飽和度の数値は（同じ数値でも）20代と貧血がある80〜90代では違う」などと解説した。

このほか、「異常分娩時の救急搬送」をテーマ

に講演した木原美奈子小児科主任医長は、墜落分娩時の新生児の保温、臍帯脱出症例の搬送時の留

意点、分娩後の母胎管理などを解説。参加した救急救命士らが知識を深め合った。（松岡秀宜）